

2021年卒  
Vol. 4

## 2月1日時点の就職意識調査

キャリアス就活 2021 学生モニター調査結果 (2020年2月発行)

いよいよ来月に就職活動本番を控え、緊張感が増す就職戦線。2021年卒者学生の最新動向を知るべく、キャリアス就活・学生モニターを対象に、2月1日時点での準備状況などを尋ねた。また今回は、今夏開催される東京五輪が就活に与える影響について考えを聞いてみた。

### 1. 2月までの就職活動準備状況

○「自己分析」82.3%、「業界研究」75.2%、「企業研究」71.8%の順

### 2. インターンシップ参加状況と2月の参加予定

○参加者は9割超(92.7%)。平均参加社数7.9社のうち、就職したいと思った企業は2.4社  
○2月は「志望業界に絞って参加」(59.5%)、「就職志望度の高い企業に絞って参加」(47.8%)

### 3. 2月1日時点の本選考受験状況と内定状況

○「本選考を受けた」47.8%。前年より7.9ポイント増加。受験社数は平均2.6社  
○「内定を得た」10.0%。前年同期(8.1%)を1.9ポイント上回る

### 4. エントリーを決めている企業

○「エントリーを決めている企業がある」78.7%。1カ月で11.2ポイント増。平均7.7社  
○6割強(63.2%)が第1志望企業の選考スケジュールを認知

### 5. 合同企業説明会への参加予定

○3月以降に「複数回参加する予定」35.8%、「1回は参加する予定」25.2%

### 6. 奨学金返還支援制度を持つ企業への意識

○貸与型奨学金利用学生の4割が、企業の「奨学金支援制度」を意識。前年調査より増加

### 7. Uターン就職の希望状況

○Uターン就職希望者は27.4%。「出身地・地元が好き／暮らしやすい」が理由のトップ  
○Uターン就職をしたくない理由は「出身地・地元魅力的な企業がない」が最多

### 8. 就職活動を行う予定の地域

○「東京」「関東(東京を除く)」の順に多く、地方学生も大半が東京での就活を予定

### 9. 東京オリンピック・パラリンピックの影響

○自身の就活に「何らかの影響があると思う」36.8%。選考早期化、交通事情の悪化など懸念  
○開催期間中に採用活動を行う企業に「悪い印象を持つ」13.8%。「印象は変わらない」81.5%

## 調査概要

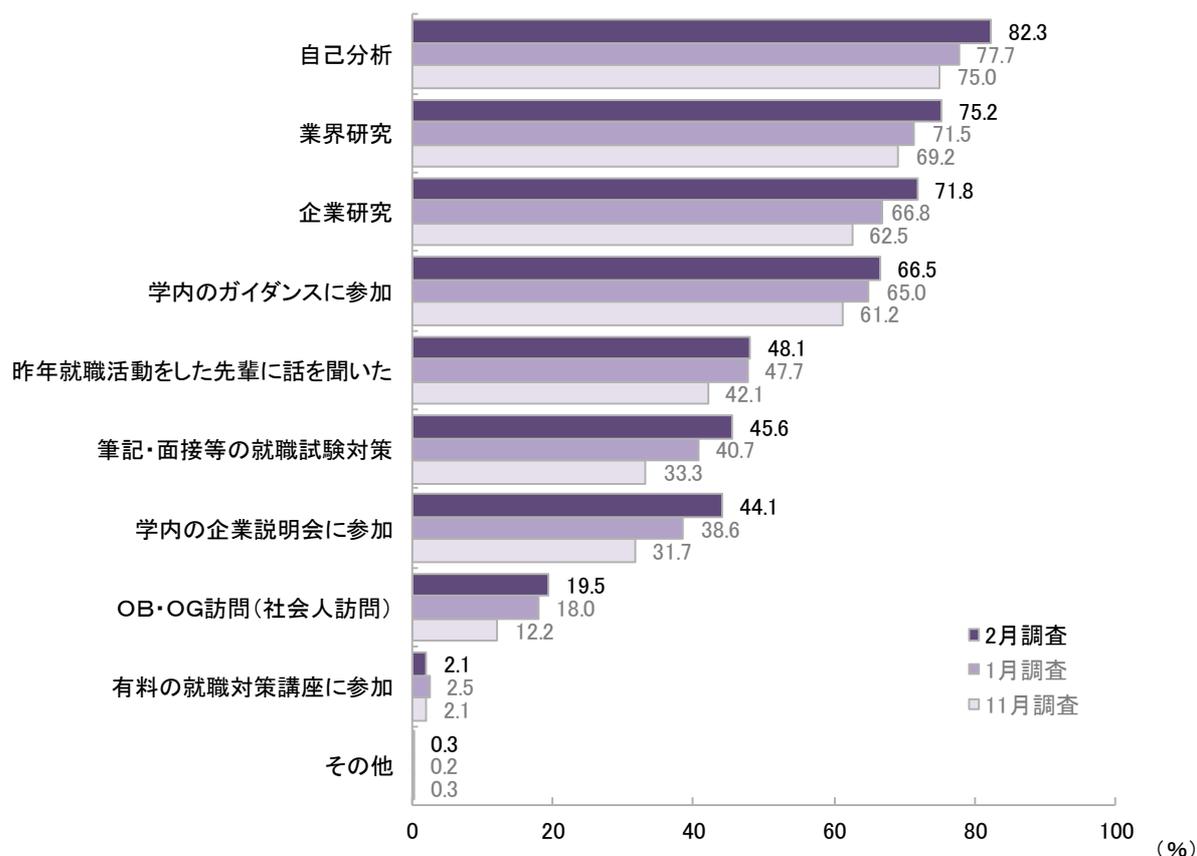
調査対象 : 2021年3月に卒業予定の大学3年生(理系は大学院修士課程1年生含む)  
回答者数 : 1,386人(文系男子455人、文系女子408人、理系男子372人、理系女子151人)  
調査方法 : インターネット調査法  
調査期間 : 2020年2月1日~6日  
サンプリング : キャリタス就活2021学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

## 1. 2月までの就職活動準備状況

就職活動準備として行った内容について、ここまでの推移をグラフにまとめてみた。

いずれの月も最も多いのは「自己分析」。11月調査と1月調査では7割台だったが、今回の2月調査では8割を超えている (82.3%)。自己分析は企業選びだけでなく、エントリーシートの作成にも必要となるため、重点的に取り組んでいるのだろう。先月 (1月) の調査から数値を伸ばした項目としては、他に「企業研究」、「筆記・面接等の就職試験対策」、「学内の企業説明会に参加」が挙げられる。3月の就職活動解禁に向けて、企業の絞り込みや筆記・面接対策など、より具体的な準備を進めているようだ。

<就職活動準備で2月までに行ったこと>



### ■就職活動準備について

〇2月でどれだけ準備できるかが鍵だと思う。昨日の自分よりも日々進化できるようにしていきたい。

<文系男子>

〇解禁まであと1カ月しか時間がなくて、準備など時間が足りるかどうかが、周りに内定保持者がぼちぼち出始めているのが不安です。

<文系女子>

〇就活の時期がもう少し遅ければ準備をじっくりできたと思う。3月解禁は早すぎる。

<文系男子>

〇現在は業界研究として、さまざまな業界の説明会に参加していますが、自分の興味のある業界を見つけ、今後は自己分析やエントリーシートにより時間をかけなければいけないと思います。

<文系女子>

〇自分とここまで向き合える時間はないから大切にしたい。これからの人生におけるターニングポイントになると考えている。

<理系女子>

〇多くの不安はあるが、悔いの残らないように2月の間、準備を進めたいと思う。

<理系男子>

〇軸が見つかったからは、企業を回るのが楽しくなりました。これからも、あまり気負いせず活動していきたいです。

<文系女子>

## 2. インターンシップ参加状況と2月の参加予定

2月1日現在、インターンシップの参加経験を持つ学生は、9割を超える(92.7%)。高水準だった前年同期調査(92.4%)と同程度の参加実績となった。

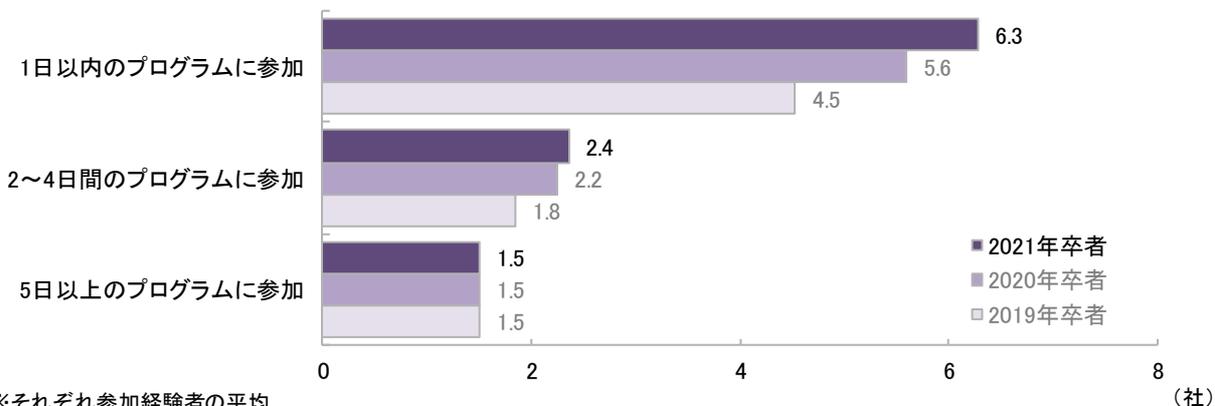
プログラム日数ごとに参加状況を見ると、「1日以内」の参加者が最も多く、9割近くに及ぶ(88.5%)。いずれの日数も前年調査と同程度の経験率だが、参加社数は増加傾向が見られる。特に「1日以内」の増加が目立つ(4.5社→5.6社→6.3社)。

また、プログラム日数を問わず、参加した結果、就職したいと思う企業があったかどうか尋ねたところ、8割強(85.1%)の学生が「あった」と回答した。インターンシップ平均参加社数7.9社に対し、就職したいと思う企業は2.4社で、参加企業の約3割に相当する。数多くのインターンシップに参加する中で、参加した企業間で比較検討し、慎重に自分にふさわしい企業を選ぼうとしている様子が感じられる。

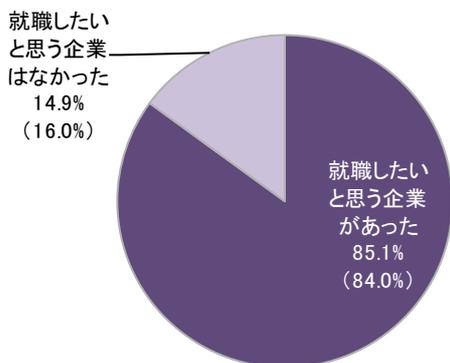
### <プログラム日数別参加状況>

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	(2020年卒者)	(2019年卒者)
1日以内のプログラムに参加	88.5	87.3	90.2	85.2	95.4	87.6	80.3
2~4日間のプログラムに参加	51.2	55.4	53.9	45.4	45.7	52.3	39.4
5日以上プログラムに参加	34.9	30.5	32.6	43.3	33.8	37.2	39.7

### <プログラム日数別参加社数>

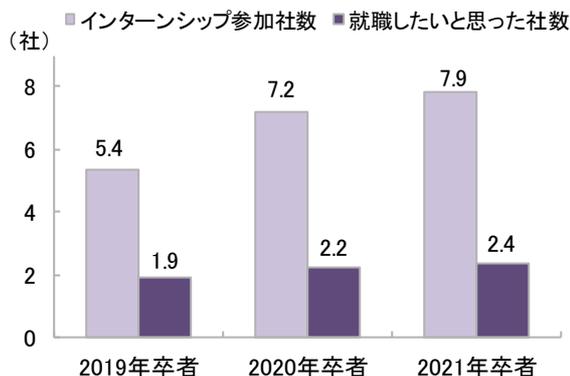


### <インターンシップ参加企業への就職意向>



※( )内は2019年の同調査での2月現在の数値

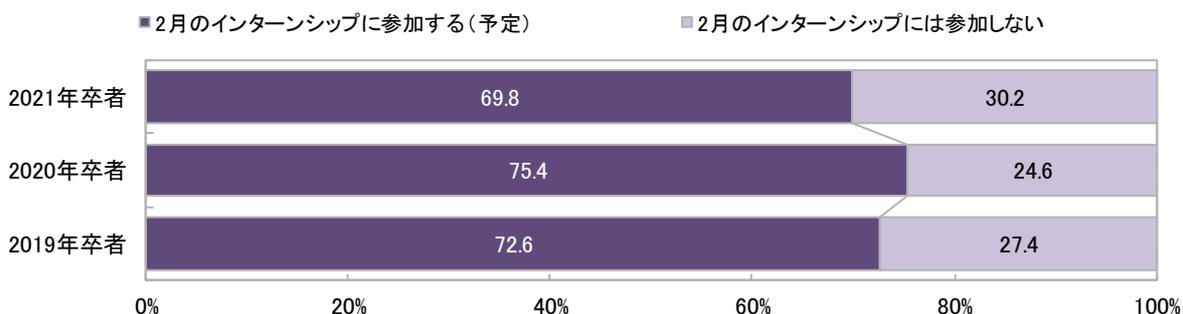
### <インターンシップに参加して就職したいと思った社数>



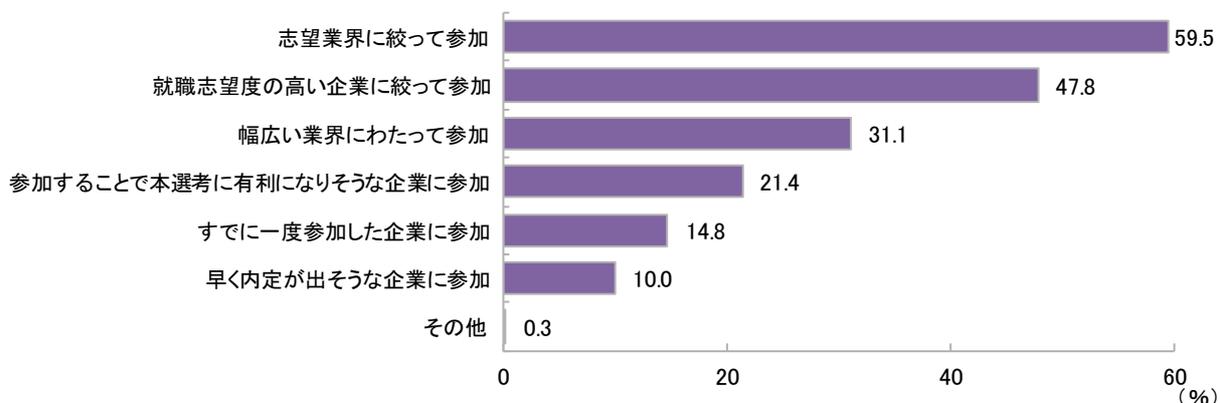
今後の参加予定を尋ねたところ、全体の約 7 割 (69.8%) が 2 月のインターンシップに参加する予定と回答した。参加企業の選び方としては、「志望業界に絞って参加」(59.5%) が最も多く、「就職志望度の高い企業に絞って参加」も 5 割近い (47.8%)。3 月の解禁を前に、就職先として関心の高い業界や企業への理解を深めるために参加したいと考える学生が多いことがうかがえる。

一方、2 月のインターンシップには参加しないと回答した学生 (30.2%) に、その理由を尋ねた。最も多いのは、「インターンシップよりもほかの就活対策に時間を割きたい」(36.1%)。本選考に備え、エントリーシートの準備や筆記試験、面接対策に注力したいと考える学生も少なくないことがわかる。

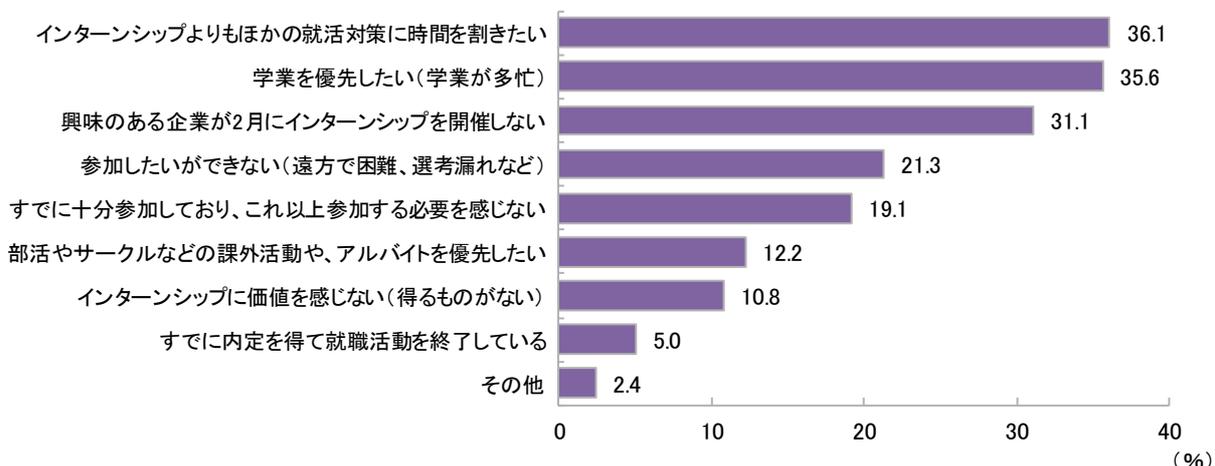
### <2月に開催されるインターンシップへの参加意向>



### <2月のインターンシップ先の選び方>



### <2月のインターンシップに参加しない理由>

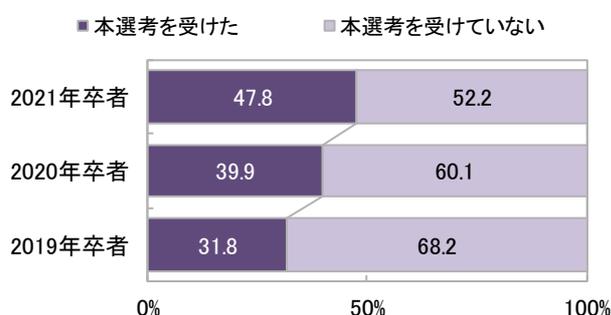


### 3. 2月1日時点の本選考受験状況と内定状況

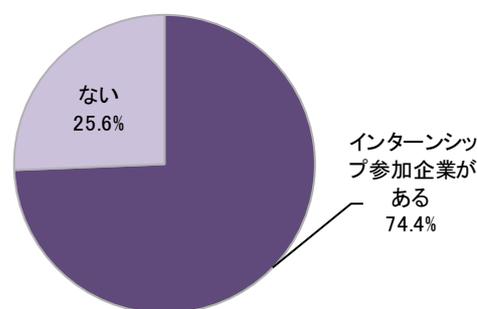
2月1日時点の本選考（採用選考）の受験状況を尋ねた。筆記試験や面接など「本選考を受けた」という学生は半数に迫り（47.8%）、前年同期調査（39.9%）を7.9ポイント上回った。この数字は毎年上昇しており、早期選考を実施する企業が増えていることを裏付ける。受験者を分母とした受験社数の平均は2.6社。本選考受験者の7割以上（74.4%）が、その中に「インターンシップ参加企業がある」と回答しており、インターンシップから早期選考につながるケースが多いことがよくわかる。

内定状況については、「内定を得た」との回答が10.0%。前年調査（8.1%）を1.9ポイント上回り、活動解禁1カ月前にもかかわらず内定率は1割に達した。先月調査時に引き続き、前年より早いペースで進行している。

＜2月1日現在の本選考の受験有無＞

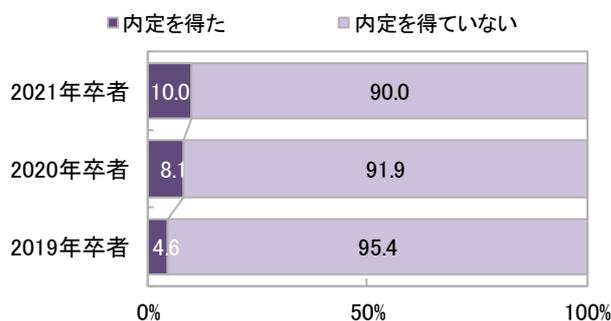


＜うち、インターンシップ参加企業の有無＞



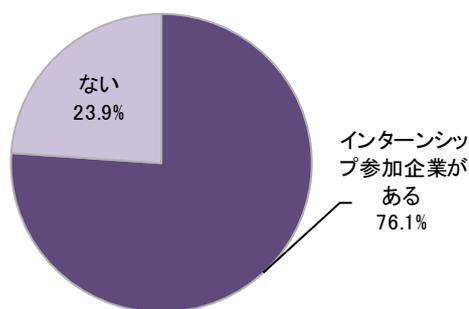
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
本選考を受けた	47.8%	39.9%	46.4%	48.8%	45.4%	55.6%
本選考を受けていない	52.2%	60.1%	53.6%	51.2%	54.6%	44.4%
選考企業社数(平均)	2.6社	2.7社	3.0社	2.6社	2.3社	2.1社
うち、インターンシップ参加社数(平均)	1.3社	-	1.4社	1.2社	1.4社	1.1社

＜2月1日現在の内定の有無＞



\*「内定」には、内々定を含む

＜うち、インターンシップ参加企業の有無＞

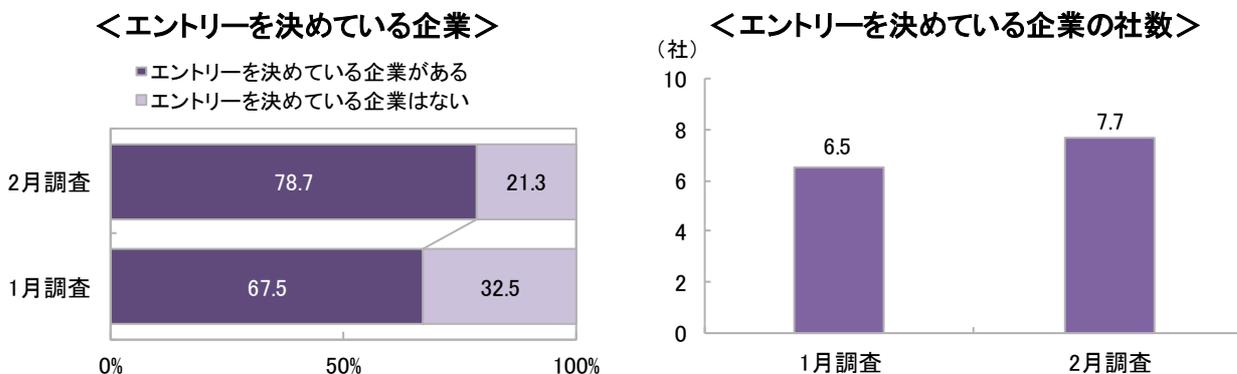


	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定を得た	10.0%	8.1%	9.5%	8.3%	11.8%	11.3%
内定を得ていない	90.0%	91.9%	90.5%	91.7%	88.2%	88.7%
内定社数(平均)	1.3社	1.3社	1.5社	1.2社	1.2社	1.3社
うち、インターンシップ参加社数(平均)	0.9社	0.7社	1.0社	0.7社	1.0社	0.9社

#### 4. エントリーを決めている企業

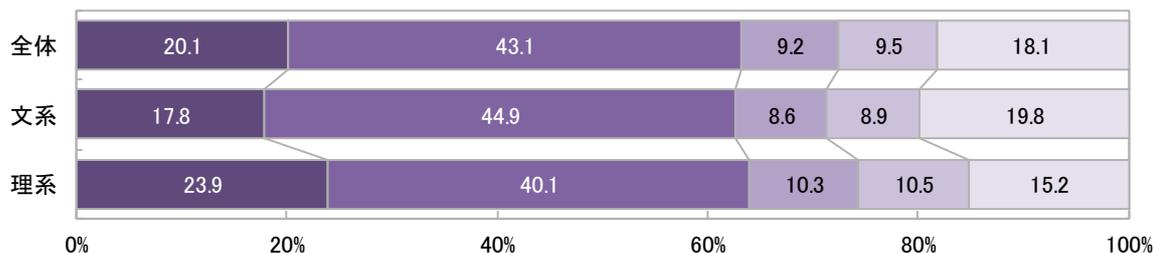
就職活動解禁(3月1日)を1カ月後に控え、「エントリーをしようと決めている企業がある」という学生は全体の8割近く(78.7%)に上った。1月調査(67.5%)からの1カ月で11.2ポイント増えた。2ページで見たように、就職活動準備として企業研究を実施した学生は7割を超えており、研究した結果、就職先として志望する企業のリストアップが進んでいるのだろう。具体的にエントリーを決めている企業の数は平均7.7社。

また、現時点の第1志望企業について、選考スケジュールを知っているか尋ねてみたところ、「明確に知っている」という学生は2割(20.1%)。「なんとなくイメージできる」(43.1%)を合わせると、6割強(計63.2%)が認知していた。その企業から内定が出る場合に、いつ頃をイメージしているかを重ねて尋ねると、選考解禁直後の「6月前半」が最も多かった(22.7%)。なお、理系は文系に比べ早い時期を回答し、早期の内定、就活終了を想定していることがうかがえる。

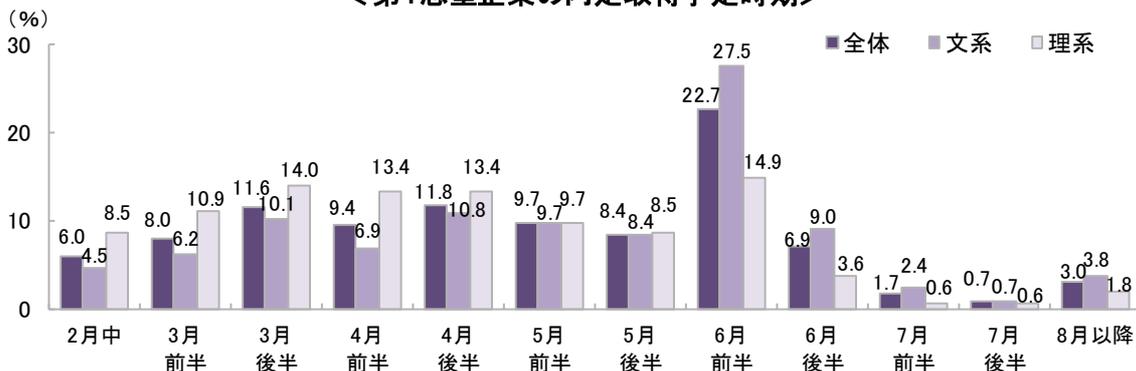


#### ＜第1志望企業の選考スケジュールの認知状況＞

- 明確に知っている(公開されている、直接伝えられた、など)
- なんとなくイメージできる(WEB上や先輩などの情報から)
- 調べてみたがわからない
- まだ調べていない
- 第1志望の企業が決まっていない



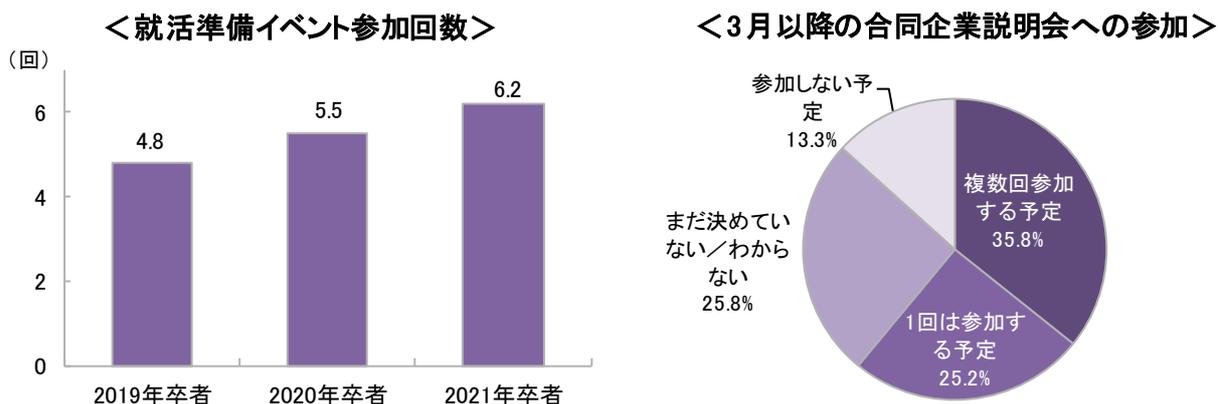
#### ＜第1志望企業の内定取得予定時期＞



### 5. 合同企業説明会への参加予定

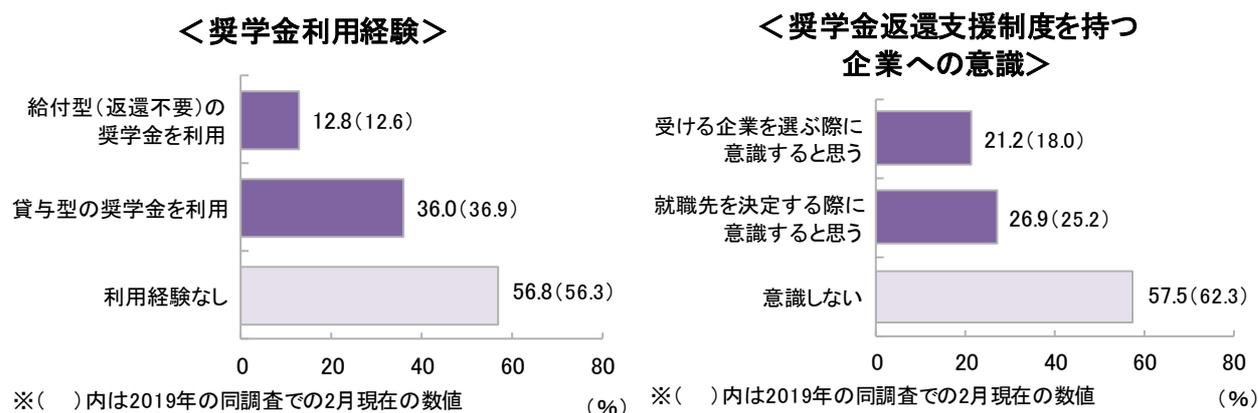
2月1日時点で就活準備イベントへの参加経験を持つ学生は9割超(91.5%)。一人あたりの平均参加回数は6.2回で、年々増加しているが、3月以降はどうだろうか。

3月の採用広報解禁後に開催される就職イベント(合同企業説明会)についても参加意向を尋ねたところ、全体の6割(計61.0%)が「参加する」と回答した。複数回の参加を予定している学生が35.8%に上り、解禁以降も企業との出会いの場として活用を考えている学生が少なくないことがわかる。



### 6. 奨学金返還支援制度を持つ企業への意識

就職先企業選びにおける、企業の奨学金返還支援制度の影響について調べた。奨学金の利用経験者は、「給付型」が12.8%で、「貸与型」が36.0%。併用する学生もおり、利用経験者は約4割(43.2%)。返還が必要な「貸与型」奨学金の利用経験者に対し、奨学金返還支援制度を持つ企業を意識するかを尋ねた。「受ける企業を選ぶ際に意識すると思う」は約2割(21.2%)、「就職先を決定する際に意識すると思う」は26.9%。それぞれ前年調査より微増しており、返還支援制度を意識する学生は増加傾向にあるようだ。なお、当社の調査(有効回答1,317社)では、社員の奨学金返還支援を行っている企業は5.1%。



#### 【参考】社員に対する奨学金返還の支援有無(企業調査)

	全体		従業員規模別		
		(前年全体)	~299人	300~999人	1000人以上
社員の奨学金返還の支援を行っている	5.1	3.1	3.9	6.7	4.2
支援を検討中	6.3	6.4	5.8	6.7	6.3
支援は行っていない(予定もない)	88.6	90.4	90.3	86.6	89.5

※2021年卒・新卒採用に関する企業調査一採用方針調査(2020年2月)

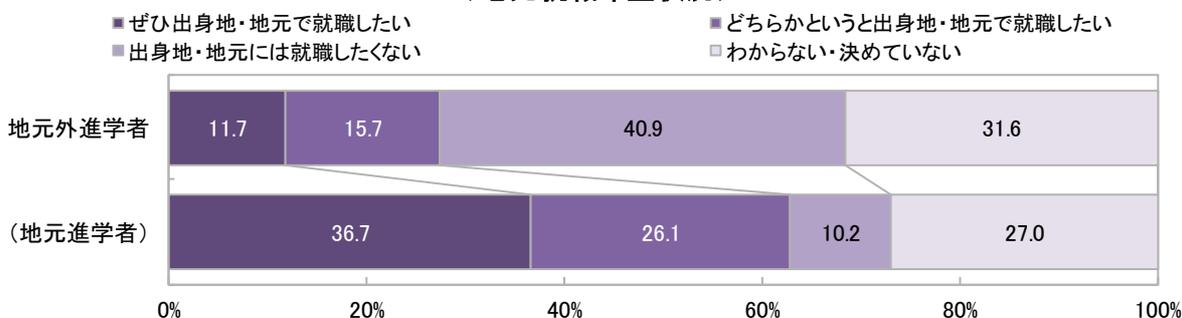
## 7. Uターン就職の希望状況

出身地・地元を離れて進学している学生 (= 地元外進学者、モニター全体の 41.8%) に、Uターン就職を希望しているか否かを尋ねた。「ぜひ出身地・地元で就職したい」(11.7%)と「どちらかという出身地・地元で就職したい」(15.7%)を合わせたUターン就職希望者は27.4%。出身地・地元に戻りたくない学生(40.9%)を大きく下回った。比較のために地元の大学に進学した学生にも尋ねたが、6割以上(計62.8%)が地元就職を希望しているのと対照的だ。

Uターン就職希望状況を出身地別に見ると、Uターン希望者が多いのは「関東出身」(計38.2%)で、他に「北海道出身」(計33.3%)が3割を超えている。

Uターン就職をしたい理由で最も多いのは、「出身地・地元が好き／暮らしやすい」で約6割(59.1%)。次いで「親の近くで暮らしたい」(44.7%)、「出身地・地元に貢献したい」(42.8%)と続く。地元への愛着や実家に近い場所での生活を希望することからUターン就職をしたいと考える学生が多いようだ。

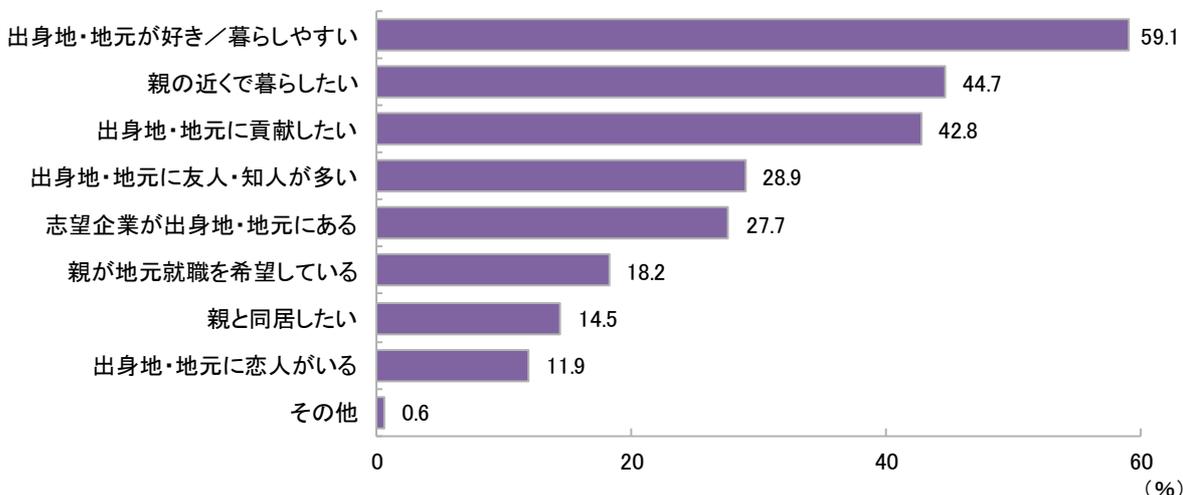
### < 地元就職希望状況 >



### < 地元外進学者のUターン就職希望状況 (出身地別) >

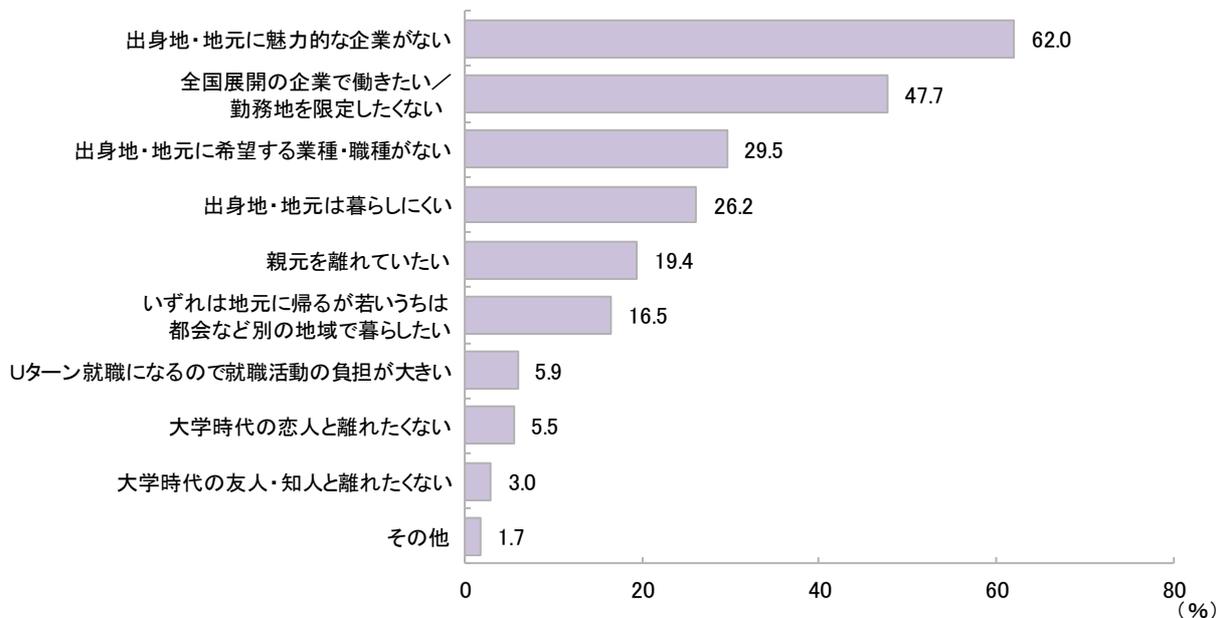
	全体	北海道出身	東北出身	関東出身	中部出身	近畿出身	中国・四国出身	九州・沖縄出身
ぜひ出身地・地元で就職したい	11.7	21.2	9.8	17.9	7.9	10.9	7.9	10.3
どちらかという出身地・地元で就職したい	15.7	12.1	18.0	20.3	12.9	15.2	12.7	16.2
出身地・地元には就職したくない	40.9	33.3	42.6	28.5	46.0	32.6	66.7	42.6
わからない・決めていない	31.6	33.3	29.5	33.3	33.1	41.3	12.7	30.9

### < Uターン就職をしたい理由 (地元外進学者) >



一方、Uターン就職をしたくない学生に理由を尋ねると、「出身地・地元魅力的な企業がない」が62.0%と最も多かった。地元に戻りたい気持ちがある場合でも、地元で就職したいと思える企業がないため、Uターン就職に二の足を踏んでしまう学生も一定数いると見られる。次いで「全国展開の企業で働きたい／勤務地を限定したくない」(47.7%)が続き、大手志向も垣間見える。

＜Uターン就職をしたくない理由(地元外進学者)＞



8. 就職活動を行う予定の地域

セミナーや選考試験受験など、就職活動のために出向く地域について全員に予定を尋ねた。全体として最も高いのは「東京」で69.6%。次いで「関東(東京を除く)」(41.8%)、「関西」(38.4%)の順。

大学所在地別に算出してみると、大学のある地域(現在の居住地域)の数値が約7~9割を占めるものの、それ以外に高いのはやはり「東京」で、幅広い地域の学生が東京での就職活動を予定していることがわかる。ただ、地方学生は交通費の負担や、体力、日程調整などに多くの不安や不満を感じており、WEBセミナーや交通費支給などの対応を企業に求める声も挙がっている。

＜就職活動を行う予定の地域(大学所在地別)＞

		(%)							
		全体	北海道	東北	関東	中部	関西	中国・四国	九州・沖縄
活動予定地域	北海道	5.2	69.8	5.5	1.8	1.0	2.5	3.3	1.8
	東北	6.3	6.3	68.5	2.9	3.9	2.8	2.2	0.0
	東京	69.6	60.3	71.2	88.5	58.0	57.2	45.7	53.2
	関東(東京を除く)	41.8	25.4	41.1	59.6	32.4	30.2	22.8	26.1
	中部	22.5	7.9	8.2	8.3	87.4	19.3	7.6	10.8
	関西	38.4	19.0	6.8	10.6	42.0	93.7	64.1	38.7
	中国・四国	8.6	1.6	2.7	2.0	3.4	7.4	69.6	11.7
	九州・沖縄	10.8	3.2	1.4	2.7	2.4	7.4	18.5	80.2
	海外	3.0	3.2	0.0	2.9	1.9	2.8	2.2	8.1

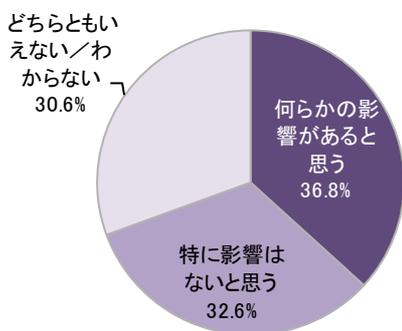
- 地方の学生が都会で就職活動をするには交通費などがかり、不利になると感じる。 <中部地方>
- 大阪や東京で開催されるインターンシップに行くと金銭的負担が大きい。交通費を出してくれる企業もあったが多くはないので、WEBでセミナー等を開いてくれる企業がこれから増えると助かる。 <中国・四国地方>
- 説明会の日程をまとめることができるか、宿泊費や交通費をどう抑えていくか不安。 <北海道地方>

## 9. 東京オリンピック・パラリンピックの影響

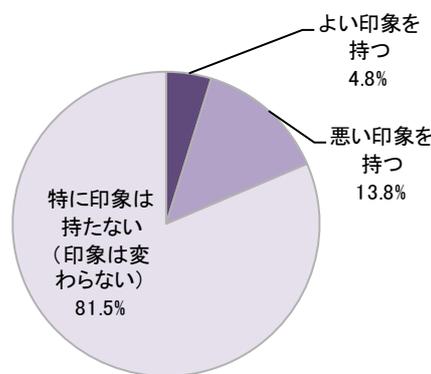
今夏、東京オリンピック・パラリンピックが開催されることが、自身の就職活動に影響すると思うかを尋ねた。「何らかの影響があると思う」との回答は 3 割強 (36.8%)。開催期間中の交通状況の悪化や選考時期が早期化することを懸念する学生が多いようだ。

また、企業が開催期間中に選考活動を行うことに対しては、「悪い印象を持つ」は 13.8%にとどまる。「よい印象を持つ」(4.8%)、「特に印象は持たない (印象は変わらない)」(81.5%) を合わせると 8 割強に上り、肯定的な見方が大半だ。ただし、移動や宿泊についての配慮のほか、学生の希望に応じて開催期間外の日程も設けるなど、柔軟な対応も求められる。

＜東京オリンピック・パラリンピック開催による自身の就活への影響＞



＜東京オリンピック・パラリンピック期間中に採用活動を行う企業の印象＞



### ■東京オリンピック・パラリンピック開催による自身の就活への影響

- 企業の選考が早まる可能性があると思う。オリンピック開始前に内々定を出す企業が多いと思う。 <理系男子>
- 交通費や宿泊費が高くなるのが心配です。 <理系女子>
- 開催後の景気の低迷を懸念して採用人数が減ったり基準が厳しくなったりするのではないかと。 <文系女子>

### ■開催期間中に採用活動（選考など）を行う企業の印象

#### 【よい印象を持つ】

- 採用に積極的だと感じる。 <文系男子>
- オリンピックを理由に例年のスケジュールが変わるのは不便。 <理系男子>

#### 【悪い印象を持つ】

- 交通機関が混雑したり、ホテル料金が高騰する中で採用活動を行うのは採用側にも学生側にも負担がかかり、非効率だから。 <文系男子>
- 公共交通機関も混むと思うので、できればやめてほしい。せめてオンライン面接にしてほしい。 <理系女子>
- 自分は競技を観戦したいのにその時期に、面接などがあると観戦に集中できない。 <文系男子>
- ボランティアに参加するため。 <文系男子>
- フレックスに働くことができない会社という印象をうける。 <理系女子>

#### 【印象は変わらない】

- オリンピックと就活は特に関係がないと思うから。ただ、混雑による交通機関の乱れなどは考慮に入れてほしい。 <文系男子>
- 社会人になったら、オリンピック中も仕事はあるだろうと推測されるから。 <理系男子>
- オリンピックを見たい気持ちもあるかもしれないが、その時点で決まっていなかった方が心臓に悪そうで、その期間でもやってくれたら感謝するかもしれない。 <文系女子>